

鞍田 崇 くらた・たかし



哲学者。1970年兵庫県生まれ。京都大学文学部哲学科卒業、同大学院人間・環境学研究科修了。博士（人間・環境学）。専門は哲学・環境人文学。総合地球環境学研究所を経て、2014年より、明治大学理工学部准教授。理工学研究科新領域創造専攻安全学系を担当（2017年度より組織再編により建築・都市学専攻総合芸術系と兼務）。近年は、ローカルスタンダードとインティマシーという視点から、工芸・建築・デザイン・農業・民俗など様々なジャンルを手がかりとして、現代社会の思想状況を問う。著作に、『フードスケープ 私たちは食べものでできている』（共著、アノニマ・スタジオ 2016）、『知らない町の、家族に還る。』（共著、兵庫県丹波県民局 2016）、『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』（単著、明治大学出版会 2015）、『「生活工芸」の時代』（共著、新潮社 2014）、『ウォーキング・ウィズ・クラフト』（共著、松本クラフト推進協会 2014）、『人間科学としての地球環境学』（共著、京都通信社 2013）、『道具の足跡』（共著、アノニマ・スタジオ 2012）、『〈民藝〉のレッスン つたなさの技法』（編著、フィルムアート社 2012）など。共訳として、絵本『たべることは つながること』（福音館書店、2009）、『雰囲気美学』（晃洋書房、2006）など。 <http://takashikurata.com/>

〔簡略版〕

哲学者。1970年兵庫県生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科修了。現在、明治大学理工学部准教授。近年は、ローカルスタンダードとインティマシーという視点から、現代社会の思想状況を問う。著作に『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』（明治大学出版会 2015）など。 <http://takashikurata.com/>